





















■ 使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト: CASBEE北九州_2016(v2.1)

1 建物概要						
建物名称	(仮称) ハイコート浅野Ⅱ	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2 重点項目への取組み度						
重点項目	得点※/満点	取組み度	評価			
1 循環型社会への貢献	3.4 /5	   	ふつう 			
2 地球温暖化対策の推進	3.8 /5	   	ふつう 			
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5	 	がんばろう 			
4 高齢社会への対応	3.0 /5	  	ふつう 			
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 	がんばろう 3 点未満 

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア						
使用CASBEE評価マニュアル:		CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト:		CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)
1 循環型社会への貢献				スコア平均 3.4		
リサイクルに関する配慮				長寿命化に関する配慮		
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減		スコア	3.5	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数		スコア 3.4
				Q2/ 3 対応性・更新性		スコア 3.4
躯体材料以外のリサイクル材を採用している。 分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。				耐久性、補修性に優れた材料を使用するよう努めている。 将来の用途変更可能性などを考慮している。		
2 地球温暖化対策の推進				スコア平均 3.8		
省エネ・省資源に関する配慮				節水に関する配慮		
LR3/ 1 地球温暖化への配慮		スコア	3.6	LR2/ 1.1 節水		スコア 4
ライフサイクルCO2排出率:84%				節水器具を採用し、水資源の保護に努めている。		
3 豊かな自然環境の確保				スコア平均 2.0		
生態系保全に関する配慮				緑化に関する配慮		
Q3/ 1 生物環境の保全と創出		スコア	1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上		スコア 3
				LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善		スコア 2
低木・地被を植栽している。				空地率=50%以上、水平投影面積率=20%以上確保している。		
4 高齢社会への対応				スコア平均 3.0		
バリアフリーに関する配慮				主な指標		
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画		スコア	3	建物の外皮性能 (BPI評価)		
「福岡県福祉のまちづくり条例」の基準に適合している。				非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級		3
				建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)		
				非住宅:BEIm値、住宅 BEI値		0.89
				外構緑化指数		5.03 %
				建物緑化指数		0 %

: 入力欄

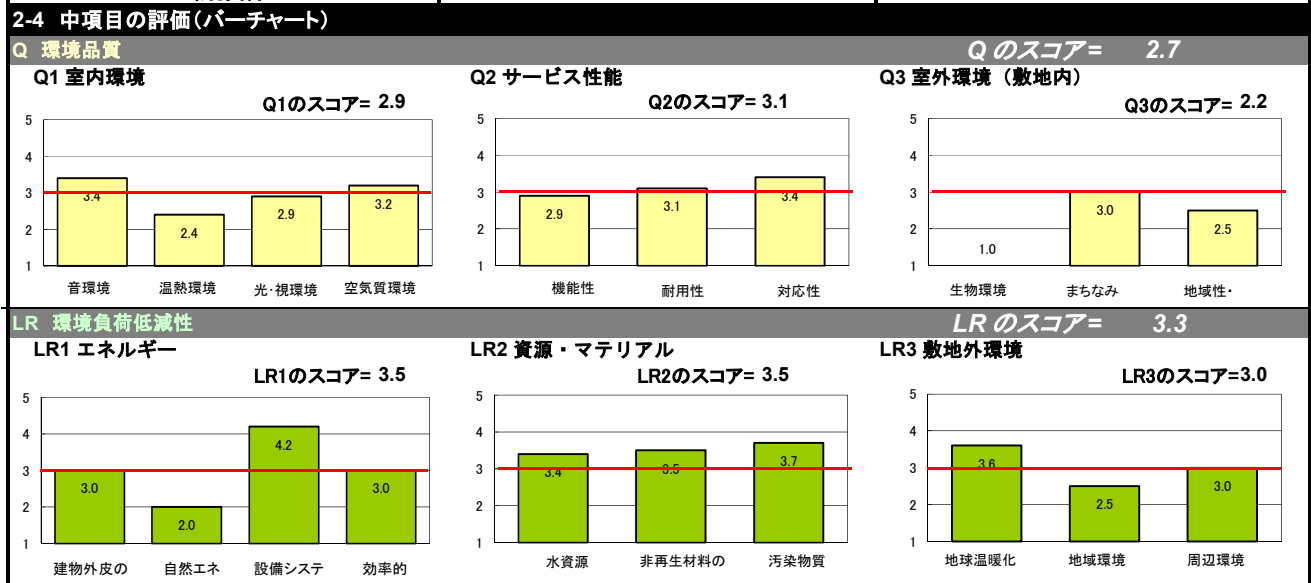
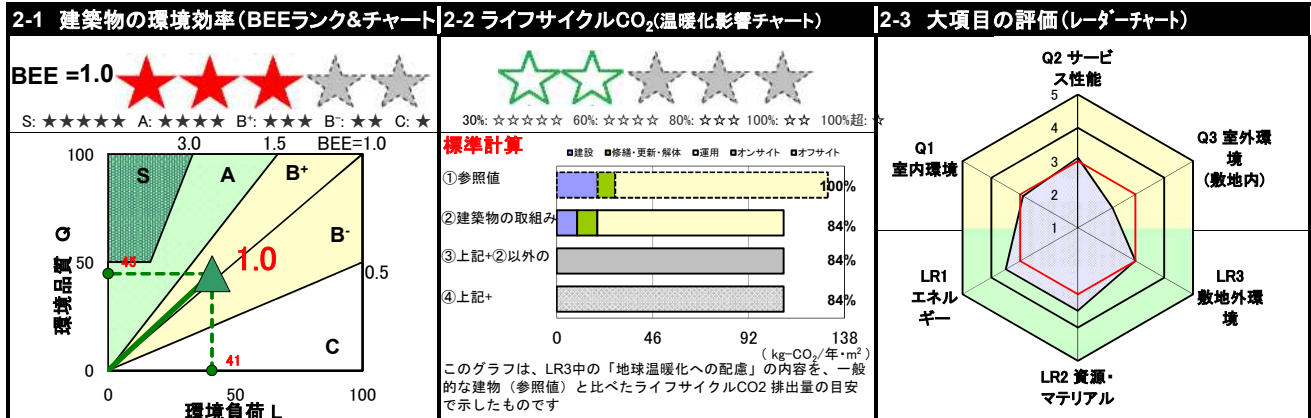
: CASBEE—建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) ハイコート浅野Ⅱ	階数	地上13F
建設地	北九州市小倉北区浅野3丁目2-82、2-678の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年5月16日
敷地面積	1,181 m ²	作成者	(有)I・O設計室
建築面積	571 m ²	確認日	
延床面積	6,130 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>省エネルギーや耐久性に配慮して、地球温暖化防止・ヒートアイランド現象の緩和を図っている。</p>		<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>断熱性能の高い外壁材の選択、屋根裏の断熱材設置等により空調負荷の低減に配慮している。遮音性能の優れた建材を使用し、住戸のプライバシーに配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>耐用年数の長い材料を使用し、建物が長期間使用できるよう配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>敷地周囲に緑地を効果的に配置し、植栽に親しむことができるように配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明や高効率給湯器を採用し省エネルギーを図っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水器具の利用により、節水を図っている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂を削減し、地球温暖化防止を図っている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称) ハイコート浅野Ⅱ

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			0.40		-	2.9
1 音環境		-	0.15	3.4	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		-	-	3.9	0.50	
1 開口部遮音性能		-	-	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能	D数の予測式より、Dr=50以上	-	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	乾式二重床:Lr=40	-	-	5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	乾式二重床:Lr=50	-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		-	0.35	2.4	1.00	2.4
2.1 室温制御		-	-	3.0	0.50	
1 室温		-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能		-	-	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	3.0	0.20	
2.3 空調方式		-	-	1.0	0.30	
3 光・視環境		3.0	0.25	2.9	1.00	2.9
3.1 昼光利用		3.0	1.00	1.9	0.50	
1 昼光率		-	-	2.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		-	-	4.0	0.50	
1 昼光制御	庇+カーテンによる昼光制御を採用	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
4 空気質環境		-	0.25	3.2	1.00	3.2
4.1 発生源対策		-	-	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		-	-	3.0	1.00	
4.2 換気		-	-	3.6	0.38	
1 換気量	基準法の1.2倍以上の換気量を確保	-	-	4.0	0.33	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が床面積の1/8以上を確保	-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1
1 機能性		2.4	0.40	3.2	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性	各住戸で100Mbitクラスのプロードバンドが利用可能	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	品確法(劣化対策等級):等級2	4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	使用量上位3種のうち、2種以上にB以上を使用、Eの使用なし	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		2.8	0.30	3.8	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり		-	-	4.6	0.50	
1	階高のゆとり	(住戸部)基準階階高:3.2m > 3.0m	-	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	0.1 ≤ 壁長さ比率:0.25 < 0.3	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.89 高効率機器の採用	4.2	0.50	-	4.2
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマに加えて省水型便器を採用している	4.0	0.40	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、再生密粒度アスファルト混合物(路盤材)	4.0	0.20	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材の分離が容易、再利用できるユニット部材	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	3.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=1の発泡断熱材を採用	5.0	0.50	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が84%	3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐車・駐輪スペース、荷捌きスペースの確保	4.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		3.0	0.70	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	